

# このスポット・おすすめ!

「ミシュラン神戸ビブグルマン」受賞  
コスバ抜群の担担麺を語るで  
**オカゲサマ製麺食堂**



## ラーメン2枚看板 担担麺&飛魚だし

世界的に有名なグルメガイドのミシュランが、リーズナブルな金額設定でありながら「5000円以上の価値がある」と認められた料理に贈る「ビブグルマン」を受賞した汁なし担担麺が、昨年12月に神戸から読谷村へやって来ました。モチモチ食感の自家製麺の上には神戸ポークの肉味噌、北海道産玉ねぎなどこだわりの具材が載り、50種類以上のスパイスを混ぜ合わせたタレやラー油が味に深いコクと奥行きを生み出しています。

「辛さも自由に調整でき、辛党からお子さままで安心して召し上がりいただけます。お好みで自家製酢や温玉を加えたり、シメダ「タイプめし」を入れて食べれば、一度で2杯以上の味を楽しめますよ!」とは、同店運営会社の福田準也さん、同責任者の田場敏延さん。すべてのお客様に食べ方を説明していただきます。初めての訪問で大歓迎。ぜひ沖縄の皆さんに、こだわりのスパイスを体感してもらえればと話しています。

お店のもう一つの看板メニューが、さつぱり系の飛魚だしラーメン。旨味が豊富な飛魚煮干し(100g)だしを取り、担担麺と同じ原料・製法でつくる中細タイプの自家製麺を使用。「飲んで後のシメダ、その翌日にもピッタリです。」

さらに7月からは季節限定で、ズワイガニをたっぷり使った冷やしつけ麺も販売予定です。

住所：読谷村大木 326-6  
電話：098-923-2408  
時間：11:00～15:00  
18:00～24:00  
休み：無休  
駐車：あり  
【メニュー】  
\*担担麺  
(温玉付、ダイブめしサービス)…980円  
\*飛魚だしラーメン  
(温玉付、ダイブめしサービス)…880円  
\*肉汁からあげ(2個)…160円～



# Fresh ワインズ

人と人とのつながりを大切に…。池原建設が大切なお客様にお送りする手作り広報誌



## 読者プレゼント

このスポット・おすすめコーナーで紹介の『オカゲサマ製麺食堂』で使える



3名様

「ふた」の上に  
点々を書くと  
動物になれる  
動物ななに?

### 6月号当選者

- ★照屋 リエさん(読谷村在住)
- ★池宮城 袖花さん(嘉手納町在住)
- ★小淵 富枝さん(読谷村在住)
- ★島尻 直樹さん(沖縄市在住)
- ★比嘉 あけみさん(読谷村在住)

## ワイワイ広場

### 読者プレゼント応募方法

宛先 読谷村字伊良皆237-1  
ワイズ  
『広報誌係』

①住所 ②氏名  
③年齢 ④職業  
⑤電話番号

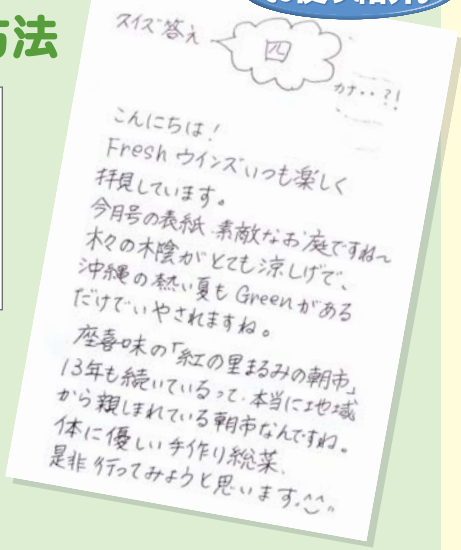
裏 ⑦ご意見  
ご感想

応募者の中から抽選で、読者プレゼントを進呈致します。どしどしご応募下さい!

### 締め切り

2019年7月20日消印有効  
「当選者は次号(Vol.179)にて発表致します」

『Freshウインズ』は、建築でお手伝いをさせて頂いた施主様をはじめ、地域にお住まいの方など、ご縁をいただいた皆様に配布しております。諸事情により配布不要となった際は大変お手数ですが、その旨ご連絡下さい。(ウインズ広報誌係)



### 今月の歳時記

- 7月13日(土)
- 7月13日(土)・14日(日)
- 7月26日(金)
- 7月27日(土)・28日(日)

- 海洋博公園サマーフェスティバル2019**  
会場・開催地/国営沖縄記念公園[海洋博公園]・エメラルドビーチ
- 第33回シーボートちゃんカーニバル**  
会場・開催地/北谷公園サンセットビーチ及びその周辺
- 第16回 かでな社交業ビアフェスタ**  
会場・開催地/嘉手納町ロータリー広場
- 第36回 うんなまつり**  
会場・開催地/恩納村コミュニティー広場

梅雨が明けたいよいよ夏本番。5月に発表された3カ月予報によると、今夏の天気・気温・降水量はほぼ平年並み。そういえば台風のニュースはまだ聞かないですね。夏を盛り上げるお祭り・イベントも相次ぎ、夜は花火鑑賞を楽しめる日も増えてきます。7月13日(土)～15日(祝・海の日)は3連休です。



↑那覇市 嘉手納町 名嘉病院 比新川 読谷高校 伊良皆 読谷村字伊良皆237-1 住宅のメンテナンスや補修等のご相談は、お気軽にスタッフへお声掛け下さい!

0120-229-512 ウインズ 池原建設 検索



# Smile Vision!

池原建設「ウィンズ」の家づくり.. 読谷村Sさん宅の事例紹介  
わずか1年間と思えない濃密なお付き合い。対話を重ねて信頼を築く



「この1年間、楽しい家づくりができました」と話してくれたSさんご家族。今後は敷地の一角を利用して、家庭菜園にチャレンジする計画もあるそうです

今月は4月号に引き続き、私たち池原建設の家づくり事例をご紹介します。昨年12月に引き渡しを終えたSさん宅は、夫婦と子ども2人が住む床面積約35坪の平屋住宅です。期限が短いタイトなスケジュールの中、営業・設計・施工の各スタッフとSさん家族が「チーム」のように結束して協力し合い、予定通りに完成。信頼関係の大切さに改めて気付かせてもらえる貴重な経験になりました。

## 相談スケジュール

### 段取りを万全に整え、全員で意思を共有

Sさんから初めて家づくりの相談をいただいたのは完成のちょうど1年前。以前から池原建設企画事業部「ウィンズ」の存在をご存じで、「住んだあとのメンテナンスまで考えると、できれば地元・読谷の会社にお願いたい」とご訪問下さいました。



■広々と使えるLDKは家族の団らん空間。リビングとフラットに連続した和室は使い勝手も抜群



## プランニング／着工 自由にアイデアを出し合い イメージを形に

敷地の広さは約100坪。Sさんは当初、2階建ての家を希望されていましたが、「駐車場を確保しても十分な生活スペースが取れるし、ワンフロアに収めるのがベター」と3LDK+和室の平屋のプランを提案しました。明るくて視線が隅々まで届く伸びやかなLDK&和室、キッチンを中心に水回りをコンパクトにまとめた効率的

な家事動線、ライフスタイルの変化に合わせて自由に仕切れる可変式の子ども室等々、随所にさまざまな設計意図を忍ばせており、ご主人も奥さまも「期待以上の内容。お任せしてよかった」と喜んで下さいました。その一方で、最大の懸念材料だった接道の問題もなんとか無事に解決し、ゆとりを持って建築工事へと進むことができました。

この時点ですっかりお互いに信頼関係が出来上がっていたため、建築中の意思疎通もスムーズ。Sさんのイメージをもとに施工担当者がアイデアを出し、それを踏まえてSさんがさらに要望を煮詰め、現場で確認しながらプロの技術で応える、といった具合に、より使いやすく洗練されたデザインへと進化していきました。

「ドアの幅や柵の位置など、細かすぎるほどの要望を聞いていただき、イメージ通りに形にしてくれました。何か問題点があったかな?と考えてみましたが、まったく見当たりません(笑)。現場でお会いする度に、最善の提案、納得できる説明をしていただったので大満足です」。



■子ども室。中央の戸を開めれば2つの個室に早変わり。部屋のサイズに合わせて可動式の収納も造作

## 完成1年間を振り返って

### 小さな信頼の積み重ねが大きな満足を生む

Sさん一家が新居で暮らし始めて半年余り。「何不自由なく快適ですよ。慌ただしかった昨年1年間が嘘みたいで、毎日ゆったりと過ごせています」とご夫妻。その反面、「とくに営業の方とはずっと密に連絡を取り合っていましたからね。完成後はそれがピタリとなくなると、ちよっぴり寂しい気持ちになりました」と有り難いお言葉。最初は緊張気味だった2人の子どもたちも徐々に仲良くなり、やがて会う度にナゾナゾをして遊んだりしたことはいい思い出です。最初の相談から引き渡し



■南東側道路面からのファサード。白を基調にした爽やかな雰囲気仕上げました。駐車場は4台分確保



■玄関へ向かうアプローチにはSさんが用意していた琉球ガラスを自ら埋め込み、華やかな印象に

まで、あつという間の1年間。短い期間だったが故に、意識的にコミュニケーションを取り合ったことで関係が深まり、たった1年間とは思えないほど濃密なお付き合いをすることができました。どんな仕事であっても大切なのは、小さな信頼の積み重ね。そんな当たり前のことがやっぱり当たり前だったと再認識させられる、印象深いプロジェクトでした。



■廊下の一角には簡易机を置いて家族全員の共有ベースとして活用。アルバムなどをしまえる書棚も用意しました

## 担当スタッフの声

営業・仲西明日香  
設計・喜友名勝志  
現場代理人・数田哲之

ご相談を受けた当初から、引き渡し期限の決まったタイトなスケジュール。Sさんの協力



■Sさんご夫婦と担当スタッフ一同で記念撮影。引渡し後もお付き合いはずっと続いていきます

もあつてすべての工程を予定通りに進めることができ、無事に引き渡しを終えたときにはホッと一安心でした。

約1年間のお付き合いの中で強く印象に残っているのは、Sさんご家族のおもてなし。地鎮祭・棟上げ式・新築祝いの際に、身内の方が大勢集まって、私たちをお招き下さいました。帰りには楚辺ポーポーのお土産付きで、温かい心遣いにスタッフ一同大喜びでした。

Sさんとは密に連絡を取り合い、新居が出来上がっていく様子を一緒にワクワク楽しんでいたので、引き渡し後はなんだか心にポッカリ穴が空いた気分にも。でも、逆にSさんからも同様の声をかけていただき、担当者として心からうれしく思いました。

Sさんから「絶対に外せない最優先条件」として提示されたのが、翌年末(2018年12月)までに引き渡しを終えること。そこには建物本体のプランや予算の話とは別に、接道に関するクリアすべき法的な課題も含まれていました。同席した設計担当者は、「何も問題なければどうにか対応できそうだが、逆に何か問題が発生すると厳しくなるかもしれない」と考え、完成時期から逆算した工程表を提案。計画通り進めるためには、決められた期限までに書類などを準備してもらったり、仕事がある平日でも時間を割いてもらったり、Sさん自身の協力が必要であることも説明しました。

いま振り返ると、ことわざにある「段取り八分、仕事二分」の実践そのもの。具体的な打ち合わせに入る前段階から課題やスケジュールを明確にし、関係者全員で意思を共有したことで、以後のやり取りがスムーズに進展。Sさんにとってもそれが安心感につながったのかもしれない。